



## 浜松観光ボランティアガイドの会

### 「浜松観光ボランティアガイド」養成講座(後編)

平成29年度の「浜松観光ボランティアガイド」新人養成講座が1月15日から2月19日に掛けて、毎週月曜日に、全6回にわたって開催されました。

前月号に続き今回は、4回目から6回目までの実施概要を報告します。

講座内容は4回目「浜松時代の家康の戦」「家康について」、5回目「家康の散歩道」「犀ヶ崖資料館」、6回目「浜松あれこれ」といった内容で実施されました。

4回目の「浜松時代の家康の戦」については、杉本忠久さんより「姉川の戦い」「三方原の戦い」「長篠・設楽原の戦い」「高天神城の攻防戦」「小牧・長久手の戦い」について興味深い説明がありました。

「姉川の戦い」では、5千人の徳川軍は2万人の朝倉軍を撃破し、さらに織田軍と戦う浅井軍を横から攻めて勝利し、この戦いで信長の家康に対する評価が高まったといわれる戦でした。

「三方原の戦い」では、戦場における合言葉について説明があり、武田軍の合言葉は“御旗(みはた)”＝“楯無(たてなし)”であり、徳川軍の合言葉は“三州(さんしゅう)”＝“三河(みかわ)”であり、杉本さんは合言葉について、いろいろ調べているが他の戦では分からないとのことで、「三方原の戦い」の合言葉は貴重であるとのことでした。

「家康について」は鈴木利雄さんより、出生から死没までを年次ごとに主な出来事の説明や、家康の「体格」「食事」「運動」「健康」「性格」など、プロフィールについての説明がありました。

5回目の「家康の散歩道」については、散歩道の前半を桶田忠正さんが、後半を川上英三花さんが、また「犀ヶ崖資料館」については益田啓子さんからそれぞれ説明がされました。



「家康の散歩道」について説明



大村会長(前列中央)と9名の講座修了生のみなさん

6回目の「浜松あれこれ」については、伊藤道代さんから「浜松が誇る日本一の産物」について、鈴木延夫さんから「日本初の工業」について、浜松出身の創業者や考案者の説明がされました。

6回に渡っての講座がすべて終了後、法被および帽子の採寸を行い、大村会長を交えて記念写真の撮影後、ブロックごとに別れて受け入れの説明会を実施して、すべてが終了しました。

最終的に講座修了生は9名となり、配属先の内訳は、東ブロック0名、西ブロック3名、南ブロック1名、北ブロック2名、中ブロック3名となりました。

なお、4月の入会以降の新人向け研修予定は、4月2日まつり会館、4月9日家康の散歩道(前半)、4月23日家康の散歩道(後半)、5月21日浜松市観光インフォメーションセンター及び駅周辺施設や店舗等所在場所の確認が予定されています。

約一ヶ月間、6回に渡り受講生、研修部員、関係者の皆様お疲れ様でした。

広報部 小池輝夫(東ブロック)

## 北ブロックミニ研修会「徳川家康家臣団屋敷跡」巡り



近藤康用屋敷跡標柱

1月21日午前の北ブロックの定例会の後、徒歩で浜松城公園駐車場を午後1時に出て「徳川家康家臣団屋敷跡」を巡り、3時に戻りました。

巡ったのは近藤康用—本多重次—山家三方衆—鶴殿兵庫頭—鳥居元忠—本多平八郎—松下之綱の屋敷跡です。

屋敷跡といっても当時の屋敷は全く残っていません。2017年8月に建てられた「徳川家康家臣〇〇〇〇屋敷跡推定地」と書かれた高さ165cmのアルミの柱が立っているだけです。(側面には解説文が書かれています。)

今回のミニ研修は、徳川家康の家臣のことに興味がある人には、何かしら得るものはあったかもしれませんが、興味がない人にとっては全く得るものはなかったと思いました。ちなみに私は後者でした。

北ブロック 花尾四郎

## ホノルルマラソン完走！ 4時間16分07秒

昨年12月10日に開催されたホノルルマラソンに出場し、完走することが出来ました。

20代後半頃にマラソンをしてみたいと考えていましたが、子供が生まれたため断念。走ることに興味が無くなっただけでなく、運動を一切しなくなり、体重は増える一方でした。

10年前に同僚から、「東京マラソンに応募したから、当たったら一緒に出しましょう」と言われたのを機に、日々少しずつ走ることにしました。幸運なことに東京マラソンの出場の抽選に外れたため、出ることは出来ませんでした。その後も走ることは続けていました。仕事帰りにジムに寄り、毎日欠かさず3.5kmを走ることを目標にしていました。

3年前に仕事を辞めたと同時に浜松に住むようになりました。その後は距離を増やし5km、2年前からはかねてより地元でランニングクラブに参加していた従妹と一緒に10kmのトレーニングを重ね、彼女と「いつかハワイで走りたいね」と話し合ったことがきっかけとなって、ホノルルマラソン参加に至った次第です。

フィギュアスケートの浅田真央さんも出場し、4時間半を目指していることを知りましたが、私の場合は完走出来ればそれでよしと思っていたため、プレッシャーを感じることも無く、景色を見ながら楽しむことに専念しました。

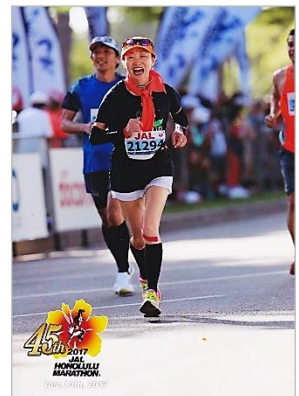
大会は早朝5時スタートだったため、2時に起きいつもの2倍以上の朝食を食べました。真っ暗の中、スタート地点に行くと大勢の人ばかりでした。

早朝なのに気温は19度とマラソンには少し暑いですが、寒いのが苦手な私にとっては快適な気温でした。ハワイの景色を満喫しながら走りたかったのですが、早朝の暗い中を走るの、楽しむことは出来ず、ようやく明るくなって来た時には雨と向かい風で、前方しか見ることが出来ませんでした。32kmを超えたところで疲れが出たため、走ったり、歩いたりを繰り返しましたが、ゴール付近で同行した母と叔母が出迎えてくれたので、最後は全力疾走でゴールすることが出来ました。

日々頑張ってきた成果が報われた一瞬で、一生忘れることが出来ない思い出になり、また参加したいと思いました。

ホノルルマラソンの運営は、大勢のボランティアによって支えられていると聞いていましたが、実際にその仕事ぶりを目の当たりにして大変感銘を受けました。私も観光ボランティアガイドとして、浜松を訪れた方が、「楽しかった、また浜松に来たい」と思っていただけのような努力したいと感じました。

西ブロック 吉山万智子



## 富士山の日 記念ウォーク実施

2月23日は富士山の日と制定されて、これを記念して、25日(日)「徳川家康家臣団屋敷跡」を巡るイベントを実施したところ、約150名の大勢の参加者がありました。

## 社会見学「歴史探訪」の小学生をご案内

2月20日、袋井市立山名小学校6年生126名と引率教師4名、計130名の皆さんが、社会見学の一環として、「浜松まちなか同行ガイド『古戦場コース』」を選定していただき、バス4台で浜松城公園駐車場に到着し、挨拶のあと8名のガイドで案内することになりました。

「古戦場コース」巡りは、東照宮（旧引間城跡）⇒普濟寺⇒犀ヶ崖資料館⇒浜松城が標準コースであります。4クラス126名を時間差を設けて出発するとしても、長い行列状態となり見学場所での混雑や時間の浪費にもなり、これらを避けるため、今回は次のようにコースを設定しました。

1組は、浜松城公園駐車場⇒浜松城⇒(バス移動)犀ヶ崖資料館⇒普濟寺⇒東照宮⇒浜松城公園駐車場。

2組は、浜松城公園駐車場⇒東照宮⇒浜松城⇒普濟寺⇒犀ヶ崖資料館⇒(バス移動)浜松城公園駐車場。

3組は、浜松城公園駐車場⇒(バス移動)犀ヶ崖資料館⇒普濟寺⇒浜松城⇒東照宮⇒浜松城公園駐車場。

4組は、浜松城公園駐車場⇒普濟寺⇒犀ヶ崖資料館⇒(バス移動)東照宮⇒浜松城⇒浜松城公園駐車場。

案内ガイドは、1組を事業部の田村事業部長と戸塚さん、2組を山田西ブロック長と竹山副会長、3組を西ブロックの高山さんと大見さん、4組を西ブロックの柴田さんと杉山さんが受け持ち、案内をしました。私は、2組の30名の児童たちと同行して取材をしました。

東照宮では、参道の正しい歩き方や、手水舎(ちょうずや)での作法、拝殿での二礼二拍手一礼等、正しいお参りの作法について、それぞれ説明を受けていました。

浜松城では戦国時代の歴史に詳しい児童や、石垣に知識のある児童がいたのには驚きました。

犀ヶ崖資料館では展望台から崖下の見学や、DVD観賞、双盤の試打をした後はバスにて公園駐車場へと移動しました。

バス車中にて、家康公の手相「柁掛線(ますかけせん)」（別名百握り）について説明をしたところ、男子児童ひとりがこの手相でした。車中ではお互いに手相を見比べながら大いに盛り上がっていました。

歴史探訪も終わり、帰宅してから今日の出来事を家族団らんの場で、参拝のマナーなどを両親に得意げに話している児童の姿を想像すると微笑ましくなりました。

9時20分に出発して、12時10分に終了。児童はこのあと公園芝生広場でお弁当を広げてランチタイムとなりました。

好天に恵まれ、怪我や事故も無く無事終了することが出来ました。児童、教師の皆さん、そしてガイドの皆さんお疲れ様でした。



犀ヶ崖資料館でDVDの観賞

## 浜松城跡発掘調査現地説明会が行われた

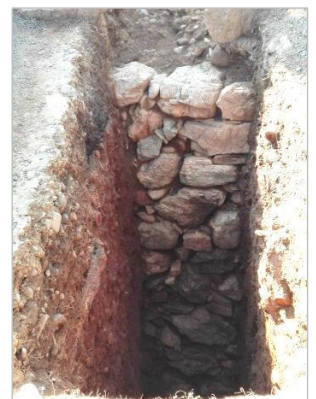
2月10日に、浜松市文化財課の主催の下、浜松城天守曲輪にて浜松城跡発掘調査現地説明会が行われ、発掘された石垣や出土品の説明が行われました。午前10時からと、午後1時半からに実施される予定でしたが、大勢の見学者が早くから来場したため、それぞれ30分ほど早く説明会が始められました。



発掘調査説明会の様子

見学者は合計900名弱とのことでした。午前、午後とも、3名の説明員がグループを分けて約1時間の説明を行ないました。浜松城の歴史も詳しく説明されました。

配付された資料によると、“今回の調査では、天守曲輪南側石塁の6箇所を発掘調査し、石塁の構造の解析をしました。石塁の内側では、高さ2.0m(9段)の石垣が確認され、石



発掘された石垣

塁の内側から見て高さ3.2m、幅7.2mであったと分かり、江戸時代の絵図に描かれている石塁が今回の調査で初めて確認されました。”ということでした。

大勢の見学者の中には、当会の会員もたくさん見えて、発掘された石垣などへの関心の高さが伺えました。

広報部 佐原正敏(中ブロック)

# 井伊家ゆかりの「長松院」を訪ねて

昨年大河ドラマ「おんな城主 直虎」は改めて遠州地方を知る良いきっかけとなりました。その一環として、遠い近江にあるが縁の深い彦根城にも行きましたが、その観光バスは城の近くにある「長松院」へも寄り、参拝しました。パンフレットには「井伊家家臣やその関係者たちの祖先が眠る彦根の古刹」とあります。



長松院山門



井伊直政公火葬の供養塔

このところで遺言により井伊直政公が火化(かか)され、骨灰遺物が埋葬されたとの説明で、またドラマでは最初「謎の少女」として出てきた直政公の母違いの姉の「高瀬姫」についても、この寺にその夫である川手良則公や孫の位牌があると知り、これまた浜松とのご縁を感じました。姫は信濃から遠江へ来て、そして近江辺りへと移り住んだようで、今昔の距離感の大きな相違を考えると、昔の女性の人生もいろいろ大変だったと感じました。

「萬年山長松院」は立派な曹洞宗のお寺で、名前の「萬」は直政公が家康公の小姓のときの名前「萬千代」から、「松」は幼名「虎松」からとのこと。

さて、このように、大河ドラマをきっかけに、いろいろと視野が広がることになり、来年の水泳などを題材にした大河ドラマも浜松に縁のあることから楽しみにしております。

西ブロック 加藤承胤

## 2月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3箇所の他に「浜松駅観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

### 《浜松城》

複数回来場のあった団体			
*J A愛知豊田三好ステーション	3回	102名	
*クラブツーリズム東海道を歩く会	2回	55名	
3日 土	桔梗会	33名	
	三重日立親睦会	39名	
7日 水	梅沢富美雄&研ナオコ全国公演	144名	
	高槻市商店街連合会	121名	
8日 木	日本旅行	30名	
10日 土	東梅坪自治会	83名	
11日 日	水戸市常澄商工会	25名	
13日 火	山富国際旅行社(中国人)	27名	
15日 木	観光シティプロモーション課	28名	
	津久井観光協会	26名	
18日 日	佐野旅行友の会	32名	
20日 火	袋井市立山名小学校	130名	
24日 土	名鉄自動車整備(株)	28名	

27日 火	クラブツーリズム 名古屋	30名
	KTC中央高等学校浜松キャンパス	37名
	与進幼稚園年長組	46名
	*上記以外に25名未満の37団体	504名

### 《犀ヶ崖資料館》

11日 日	東海道を歩く会	30名
14日 水	東海道を歩く会	20名
20日 火	袋井市立山名小学校	130名

### 《浜松まつり会館》

4日 日	日曜対応	57名
11日 日	日曜対応	58名
18日 日	日曜対応	93名
25日 日	日曜対応	78名

## はままつ案内人会報 192号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町 100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

ホームページ <http://www.hama-svg.jp/>

浜松観光ボランティアガイド

検索



出生大名 家康くん

出生法師 直虎ちゃん